

特集 小平市国際交流協会（K I F A）主催「防災体験会」

首都直下型や東南海地震発生が近いと言われる今、小平在住外国人の皆さんは、「もし災害がおこったらどうしたらよいだらう」と不安に思っているのではないかと考え、国際交流協会主催の「防災体験会」取材しました。K I F Aでは、在住外国人向けに、地震への備え、心構えを学ぶ講座を毎年開催しています。

体験会は7月15日（土）午後の猛暑のなか、学園西町地域センターで開催。企画運営しているのは、K I F A災害時対応ボランティアの方々。外国人の参加者は15人ほど。午前中に日本語教室があり、終了後参加された方たちです。中国を中心としてアジア系の方たちが多いため、どなたが参加者でどなたがボランティアなのか、ちょっと戸惑ってしまいました。

お話してみると、3年以上小平に住んでいて日本語ペラペラの留学生から、2週間前に来日された方まで様々。ボランティアチーフの菊地さんによれば、「みんなほとんど地震体験のない人たち。“なぜ地震や避難について学ばなければいけないのか”、そこからまずわからないんです」とのこと。「地震を不安に思って」参加というよりは、まず、地震ってどんなもの、ということから説明を始めなくてはならないのかと、すこし驚きました。



まず、消防署員から説明

プログラムは、非常食試食体験から。メニューはアルファ化米とけんちん汁です。「はじめは豚汁と思っていたのですが、ムスリムの方に配慮してけんちん汁にしました」とのこと。

食べながらパワーポイントで地震の映像を視聴。阪神・淡路にはじまり、東日本、熊本など日本人にとってはよく知っている写真が写しだされます。

その後、もし出先などで強い地震にあったらという想定で対処法をロールプレイ。パソコンとスマホを使った連絡体験です。

参加者「もしもし、K I F Aですか？ 地震にあつてどうしたらよいかわからない」

K I F A 「はい、今、どこにいますか？」「けがはないですか」

などの会話をかわして対応をアドバイスします。コンビニにはWi-Fiがあることが多いので、その

近くに行くとなつながらやすい、などの説明は、私たち日本人にとつても貴重な情報でした。もっとも、K I F Aのある学園西町地域センターがまだWi-Fi未設置で、これは課題とのこと。

ロールプレイのあとは、AED体験と消火器体験。みなさん熱心に取り組んでいました。

小平市の外国人登録者数は約4000人。短期での来日・在住の方たちも多いようです。こういった体験講座にもっと大勢の方が参加され、いざという時にすこしでも落ち着いて行動できるようになつておくと良いと思つました。

菊地チーフは、「全体からみれば参加者数は少ないけれど、今日体験した人たちが、実際の災害の際にリーダーとなつて行動してくれると良いと思つています」と話していました。（文責：伊藤）



AED体験



的に向かつて消火器体験

データ 小平市国際交流協会（K I F A : Kodaira International Friendship Association.）市民が中心となつて、地域における国際交流の推進と、外国との交流の促進活動拠点。平成2年設立。学園西町地域センター3階。国際こどもクラブ、多文化理解講座等を開催。